

豊川市議会公傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

■まちづくり
豊川市では鉄道駅を中心として「歩いて暮らせるまちづくり」に動き出していることから西小坂井駅周辺のまちづくりについて質問したのは堀部賢一氏(清風会)。

堀部氏は特に西小坂井駅周辺の児童や生徒、高齢者にとっても安全で住みやすいまちであるために、都市計画決定から50年以上経過した同駅周辺の都市計画道路の整備が進まないまま宅地化が進ん

④

新規の整備区域を拡大していただけるのか、更には、使用料値上げの考え」について質問した。

上下水道部長は「今後、国庫補助金が整備費から老朽化する施設の維持管理へシフトする流れである」として、

「一宮バイパス 小林琢生氏(清風会)は一宮大木土地区画整理事業について取り上げ、国道151号一宮バイパスの整備状況、今後の見通しについて質問

図られるよう要望活動をしてほしい」として完成時期については県より具体的な数字は示されていないことも明かした。

■トイレ環境の整備
八木月子氏(一人会派)は「男女共同参画」について取り上げ、議論の中でLGBT(性的少数者)に対する学校環境の整備について質問した。

195施設の長寿命化に取り組んでいることなどが説明された。

公共施設の再編で問われるマネジメント力

た。地元議員らしい整理された問題提起だった。

り、効率的な運営に努め、公営企業会計への移行、経営戦略の策定などで使用料の適正化について慎重に検討していく」とした。

建設部長は「一宮バイパスは延長7.9キロが全区間で事業として進められている。全体で約60%の用地買収が完了しており、関係機関へ予算確保、事業進捗(しんちよく)が

進めている市内36小中学校のトイレ改修事業で、いわゆるLGBTの児童や生徒を含めた全ての人が利用しやすいトイレ環境の整備に乗り出していることが強調された。

■ファシリティアム
財政管理監は「公有財産の適正化」の面から「行革アクションプラン」での取り組みについて答えて、特に普通財産については有償貸付などで活用を図っていると、具体的取り組みとして2年前から小坂井地区の公共施設再編整備に取り組んでいることや、

また議論の中で日立立場地に新市民文化会館を検討していること、それに伴い既存の文化施設については用途廃止の方向で検討していくことなどが示された。

合併によって膨らんだ豊川市の公共施設はその老朽化とともに再編計画がいっしょに進むとしており、文字どおりファシリティアムマネジメントの真価が問われている事を印象づけた。いい質問だった。